

# 文 化

## 第1節 概 要

昭和48年秋のオイル・ショックに始まった経済の混乱は、高度成長の波に乗って進展してきた物質偏重の国民生活に対する警鐘となった。そして、その反省として、生活の中におけるおいと心の豊かさを求める社会的な要請が急激に高まってきた。

芸術文化の振興・文化財の保護等の文化行政は、心の領域を通じて県民生活と接触を持つユニークな行政として、このような時機にますます重要性を加えてきた。

昭和49年度は、次の5項目を重点として事業を進めてきた。

### 1 文化活動諸条件の整備促進

地域文化活動推進のため、青少年芸術文化リーダーの集いのほか、日本画、彫塑、音楽、伝統工芸の各研修会を開催し指導者の養成に努めるとともに、県文化センターの施設整備やいわき市立文化センター建設の助成を行うなど施設整備に努めた。また、県組織の文化団体の行事や運営を助成し、その自主的活動の推進にも努めた。

### 2 芸術文化活動の充実

県民参加の文化活動を振興するため、県中地区を主催地区として県芸術祭を開催し、充実した成果を見た。更に、芸術文化のふるさとを4か所から6か所に指定を増し、モデル的に地域ぐるみの文化活動の推進を図った。また、中央の芸術祭、青少年芸術劇場、こども芸術劇場などの舞台芸術を招へいし各市で公演、県民に優れた芸術鑑賞の機会を提供した。また、各市文化施設の自主事業を助成し県民文化活動への参加を促進した。特に全日本合唱コンクール全国大会を共催しその運営を助成したが、本県合唱水準は高く評価された。

### 3 開発に伴う遺跡保護の強化

開発行為による遺跡破壊が引き続き進行しつつあるため、これに対応して、関係部局と協議してその保護に努めた。また、昨年来の東北新幹線建設地内遺跡調査については、全力をあげて調査を進めている。また昨年に引き続いて、相馬地域開発地区の遺跡地図作成を行った。

### 4 指定文化財の保護の充実強化

文化財を保護するため、指定のための調査、文化財基礎調査をはじめ各種調査を実施した。また、新たに文化財パトロール事業を開始し、指定文化財及び遺跡の実態は握と保全に努力した。防災、環境整備をはじめとする文化財保存事業に対する助成を充実し、保護の万全に努めた。特に喜多方市熊野神社長床の解体修理が3年目で落成している。

## 5 文化財の普及と活用の推進

情操豊かなふるさとづくりを進めるため、民俗芸能のふるさと指定をはじめ、文化財バスの運行、民俗芸能大会の開催等、県民が膚で文化財に接し文化財に対する理解を深め、愛護思想を高めるための事業を取り入れ、文化財の普及と活用事業の拡充を図った。

## 第2節 芸術文化

### 1 文化振興諸条件の整備

#### (1) 指導者養成

- ① 青少年芸術文化リーダーの集い  
ア、主催 県教育委員会  
イ、期日・会場・参加者等

部 門	期 日	会 場	参加者 (人)
美 術	昭和49年8月30日～9月1日	国立磐梯青年の家	43
舞 踊	" 9月6日～9月8日	"	44
演 劇	" 9月20日～9月22日	"	69
文 学	" 10月18日～10月20日	"	27
合 唱	" 12月6日～12月8日	"	63

#### ウ、講師

- (ア) 美術部門 版画 福田利秋(集团版会員)  
日本画 安部孫一(日展所属) 洋画 荒川三郎  
(水彩連盟会員)
- (イ) 舞踊部門 長沢トシエ(県民踊指導者連絡協議会  
会長) 鈴木武子(前同副会長)
- (ウ) 演劇 永曾信夫(桐朋学園大学短期大学部助教授)  
助手 弓削礼子(前同学生) 下村節子(前同学生)  
佐藤秀一郎(安積高等学校教頭) 笠原健治(県文化  
センター職員)
- (エ) 文学 川村重和(郡山女子大学教授) 小説  
藪部一郎(県芸術文化協会会員) 詩 木村常利  
(前同)・短歌 作山暁村(前同) 俳句 伊藤松風  
(県現代俳句連盟事務局長)
- (オ) 合唱 高野広治(全日本合唱連盟常任理事)  
渡部康夫(安積女子高教諭) 五十嵐庸夫(福島西  
女高教諭)